

2016 年度統計関連学会連合第 2 回理事会・組織委員会

日 時：2016 年 9 月 7 日（水）15:00 – 16:00

場 所：金沢大学角間キャンパス人間社会第 1 講義棟 312 号室

出席者：

【学会連合理事】

応用統計学会	永田 靖, 栗木 哲
日本計量生物学会	大橋靖雄, 浜田知久馬
日本計算機統計学会	栗原考次, 大石雅彦
日本行動計量学会	岡太彬訓 (有), 菊地賢一 (有)
日本分類学会	今泉 忠, 中山厚穂
日本統計学会	岩崎 学, 中野純司
【連合大会実行委員会】	星野伸明 (2016), 白石高章 (2017)
【連合大会運営委員会】	桜井裕仁 (2016), 川崎能典 (2017)
【連合大会プログラム委員会】	林 篤裕 (2016), 谷崎久志 (2017)
幹事	田中研太郎, 松浦 峻

(注)「(有)」は委任状有.

配付資料

1. 2016 年度統計関連学会連合第 2 回理事会・組織委員会議案
2. 2016 年度統計関連学会連合第 1 回理事会・組織委員会議事録案
3. 統計関連学会連合ホームページ画像案
4. 統計関連学会連合ホームページ制作御見積書
5. 統計関連学会連合ホームページ制作 (CMS 導入) 御見積書
6. 統計関連学会連合大会歴代開催地一覧

開会に先立ち、応用統計学会の連合理事が樋口知之氏、水田正弘氏から永田靖氏、栗木哲氏に交代したことが紹介された。任期は 2017 年 3 月までである (再任可)。

前回議事録確認

岩崎理事長より、2016 年度統計関連学会連合第 1 回理事会・組織委員会議事録 (配付資料 2) が報告され、承認された。

組織委員会・報告

1. 2016 年度連合大会報告

(1) 林プログラム委員長より、以下の報告があった。

- ・国内外の発表予定者で、何人かの発表キャンセルがあった。海外招待講演者のキャンセルはプログラム変更間に合ったが、それに間に合わないキャンセルもあった。
- ・部屋によっては少し会場が狭いと意見があった。

(2) 星野実行委員長より、以下の報告があった。

- ・致命的な問題はなかった。
- ・助成金については、石川県と金沢市からの助成金額は大会の収支に依存するため、最終的な金額は未確定である。10月初旬に大会の仮決算を基に助成金の請求をする予定。

(3) 桜井運営委員長より、以下の報告があった。

- ・参加者（事前参加申込と当日参加申込の合計人数）は、いずれも速報値であるが、9/5～9/7の本大会が744名、チュートリアルセッションが252名、市民講演会が197名、懇親会が264名であった。
- ・今回の大会は計30の企業・団体などに協賛いただき、協賛関係の収入は約195万円の収入を予定している。
- ・決算報告は次回の組織委員会で行う予定。

2. その他

(1) 林プログラム委員長より、以下の問題提起があった。

- ・今回、企画セッションが37でとても多く（昨年は25）、プログラムを組むのが大変であった。今後さらに増えたらどうするかについて、議論すべきではないか。例えば1学会あたり4件とか、そのような制限を考える必要があるかもしれない。
- ・コンペティションセッションも32件で近年非常に多くなっており、さらに懇親会の前に表彰式を終えているので、かなりタイトなスケジュールになっている。コンペティションセッションをパラレルにするという案もあるが、そうすると審査委員がさらに必要になる。
- ・また、今回、全体としても講演数が多く、セッションのパラレルの数が10であった。今後、大会日程を1日増やしてパラレル数を8程度にするなどを議題に挙げる必要があるかもしれない。

(2) 岩崎理事長より、以下の問題提起があった。

- ・国際セッションをもう少し増やしてはどうか。
- ・また、それに合わせて、大会ホームページについても英語のページをもう少し増やし

てはどうか.

組織委員会・議案

1. 2017年度連合大会各委員長および各学会からの選出委員の承認

プログラム委員会, 運営委員会, 実行委員のメンバーについて以下の通り承認された.

・プログラム委員会

委員長: 谷崎久志 (大阪大)

応用統計学会: 星野崇宏 (慶應義塾大), 南美穂子 (慶應義塾大)

日本計算機統計学会: 渡辺敏彦 (日本 CRO 協会), 松井秀俊 (滋賀大)

日本計量生物学会: 山本英晴 (中外製薬), 田栗正隆 (横浜市立大)

日本行動計量学会: 玉利祐樹 (東京大), 大橋洗太郎 (立教大)

日本分類学会: 飯塚誠也 (岡山大)

日本統計学会: 元山 齊 (青山学院大), 寺田吉彦 (大阪大)

・運営委員会

委員長: 川崎能典 (統数研)

応用統計学会: 佃 康司 (東京大),

日本計算機統計学会: 下川敏雄 (和歌山県立医科大), 藤野友和 (福岡女子大)

日本計量生物学会: 魚住龍史 (京都大), 柏原康佑 (東京大)

日本行動計量学会: 久保沙織 (早稲田大), 谷岡健資 (和歌山県立医科大)

日本分類学会: 上野隆彦 (聖マリアンナ医科大)

日本統計学会: 姫野哲人 (滋賀大), 川野秀一 (電気通信大)

・実行委員会

委員長: 白石高章 (南山大)

委員: 松田眞一 (南山大), 阿部俊弘 (南山大), 大月英明 (南山大),

林 篤裕 (名古屋工業大)

その他, 委員長による委員の追加がある場合は適宜, 岩崎理事長に報告の予定.

2. 連合ホームページのリニューアルおよび過去の連合大会記録のアーカイブにかかる費用の拠出

- ・岩崎理事長より, 連合ホームページのリニューアルとアーカイブについて, 25万円くらい拠出の予定であり, さらに英語のホームページも作成することを考えたいとの説明があった.

- ・連合大会の予算で進める方向となった.

3. その他

- ・ 次回の組織委員会は決算が出た後の12月のどこかで開催予定。12月17日は計量生物の理事会があるため、12月10日が候補となる。

連合理事会・報告

1. 連合サーバーの移転

- ・ 連合のサーバーの移転は完了した。組織委員会での議論の通り、今後、ホームページのリニューアルとアーカイブ、および英語のページの作成を進めていく。

2. 欧文ジャーナルに対する各学会の意見

(1) 統計関連学会連合としての欧文ジャーナルの発行に関する各学会の意見について以下の報告がなされた。

- ・ 統計学会は、来年の3月の会議で決める予定。少なくともe-journal化は賛成の方向。
- ・ 応用統計学会は、資金の拠出は難しいが、人的には協力したい。
- ・ 計算機統計学会は、既に欧文誌があるため、それを変えることになると影響は大きい。連合の活動として行うのであれば前向きに考えたい。
- ・ 計量生物学会は、国際計量生物学会 (International Biometric Society) の支部でもあるので、静観の方向ではあるが反対意見はなかった。
- ・ 行動計量学会は、既に国際誌 Behaviormetrika があるため、深く関わらない予定であるが反対はしない。
- ・ 分類学会は、既に ADAC (Advances in Data Analysis and Classification) という国際誌があるが反対はしない。

(2) その他、以下の意見や議論があった。

- ・ 出版等にかかる費用について、再度 Springer に確認することとなった。
- ・ 統計学会誌や計算機統計学会誌については発展的な解消になるため、新たな雑誌は Volume 1 から始まることになる。
- ・ 来年の4月までに決定して、もし欧文ジャーナルの発行を進めるのであれば、2018年4月から始める予定。
- ・ 雑誌名には Japan という単語は入れないほうがよいとの意見があった。

3. 統計家の行動基準・倫理綱領

岩崎理事長より、以下の説明があった。

- ・ 前回の理事会で、計量生物学会のものをベースに、連合としてスリムなものをつくる方向となっている。
- ・ 委員会案ができ次第、理事の皆さんに送り、意見をいただいて、早ければ12月の理事会で、遅くとも来年4月の理事会で承認を得たい。

4. その他

特になし

連合理事会・議案

1. 連合ホームページのリニューアルおよび過去の連合大会記録のアーカイブ
 - ・リニューアル, アーカイブを進めていくことで承認がなされた.

2. 各学会主催の研究会およびシンポジウムなどの後援・協賛
 - ・分類学会の国際学会 (IFCS-2017) に対する連合からの後援を承認した.
 - ・岩崎理事長より, 他にも後援・協賛の依頼があったら知らせてほしいとの話があった.

3. その他 (2018 年度連合大会開催場所)
 - ・2018 年度統計関連学会連合大会の開催場所について, 歴代開催地一覧 (配付資料 6) を踏まえて議論がなされた.

文責：松浦 峻

修文：岩崎 学